

分館海の博物館 20年のあゆみ

奥野淳児

分館海の博物館は、平成31年3月12日で開館20周年を迎えます。ここでは、平成21年度以降の10年間にあった海の博物館の出来事を紹介します。

天皇・皇后両陛下による行幸啓

平成22年9月26日、海の博物館への天皇・皇后両陛下の行幸啓がありました。両陛下には、房総半島の豊かな海の自然をテーマとした展示室をご覧いただきました。

入場者 200万人達成

平成27年5月9日、海の博物館への累計入場者が200万人に達しました。200万人目のお客様には、チーバくんやかつらカップー（勝浦市公式キャラクター）との記念撮影などのイベントにご参加いただきました。

資料収集

「房総半島周辺の海洋生物相とその特徴」をテーマに資料の収集を行っています。この10年間は、「深海生物」「外洋性生物」「内湾性生物」のサブテーマをそれぞれ3年ごとに区切り、重点的に収集を試みました。これに関係して、比較資料の収集のため駿河湾、伊豆半島下田、瀬戸内海などで調査を実施しました。

調査研究

平成23年3月には、開館から10年間の調査研究の成果を13編の論文として「房総半島の海洋生物誌（中央博物館自然誌研究報告特別号 No. 9）」にまとめ、出版しました。また、得られた成果のうち、特に報道に取り上げられたのは、アマミホシゾラフグの作るミステリーサークルに関わる研究、甲殻類のムギワラエビと刺胞動物のドフライインソギンチャクが100年ぶりに東京湾外湾で再発見されたことなどでした。

展示

*マリンサイエンスギャラリー

例年2月からゴールデンウィークにかけて開催される海の博物館の企画展示で、この10年間のテーマは次のとおりです。平成21年度（以下、H21のように記す）。

「海の生きものの共生―パートナーシップの多様性―」、H22「水辺の生きものあれこれ―外房の豊かな海と川から―」、H23「名前の秘密―海の生きもの編―」、H24「チーバくんと学ぶ深い海に暮らす生きものたち」、H25「海藻いろいろ―千葉県豊かな海から―」、H26「クラゲ展」、H27「毒をもつ海の生きもの―食べるため・食

べられないため―」、H28「サンゴ礁の生きものたち」、H29「房総の海の幸」、H30「水辺の外来生物―房総の海と川から―」。

*収蔵資料展

夏休み期間中に開催される海の博物館の企画展示です。H21「大収蔵資料展」、H22「サマーとっておきの7つのトリビア―」、H23「夏休みスペシャル勝浦・磯の生きものミニ水族館」、H24「夏休みスペシャル海のカニ・川のカニ」、H25「夏休みスペシャルウニと愉快ななかまたち」、H26「フグ・ふぐ大集合」、H27「夏休みスペシャル外房・川の生きものミニ水族館」、H28「海の絶滅危惧種」、H29「夏休み海の学びスペシャルエビざんまい」、H30「千葉の海 貝づくし」。

その他、秋期にウミウシや勝浦の海中を題材とした写真展なども開催しました。

教育普及

館主催の観察会や、学校などからの依頼を受けて行う野外実習授業など、毎年約50件の野外行事を行ってきました。他にも、学習支援のために「海の生きもの観察ノート」を刊行しました。

*海の生きもの観察ノート

写真をふんだんに使い、研究成果をもとに観察に役立つ情報をまとめた冊子です。平成21年度以降、新たに7種類が追加されました。No. 8「海の鳥を観察しよう」、No. 9「磯の魚を観察しよう」、No. 10「磯の貝を観察しよう」、No. 11「クラゲを観察しよう」、No. 12「ヒラムシの博物誌」、No. 13「ヒトデ・ウニ・ナマコを観察しよう」、No. 14「ゴカイのなかまを観察しよう」。



企画展示のようす。ミステリーサークル研究の成果をみなさまにお伝えしました。

(分館海の博物館)